

# 校訓 謙讓優雅

愛知淑徳学園理事長・学園長 小林素文

愛知淑徳学園の校訓は、剛健質実、  
明朗快活、謙讓優雅である。

学園が創立された明治38年の日本は、今では考えられないほど貧しく、窮乏から抜け出そうと、数多くの日本人がハワイに移住し、日系人がハワイ全人口の4割を占めるほどであった。また、家父長制のもと、女性の生きる選択肢は少なく、ほとんどの女性は4年制の尋常小学校を卒業後、奉公にたり、立てなどの花嫁修業をしたりし、親の決めたところに嫁いでいった。当然、高等女学校は良家の子女に限られ、その進学率も5%に満たなかった。

こうした時代背景のなかで誕生した愛知淑徳高等女学校の教育目標は、良妻賢母の育成であり、3つの校訓は意義深いものであった。

ものが足りない時代、質素を心がけつつも、心のある生き方を貫く、剛健質実、良妻賢母たる大切な資質であった。

否応なしに嫁ぎ先の夫や舅に任せ、家事をし、子育てをしていく運命を、自分に定められた務めと割り切り、明朗快活に家を守っていくことも求められて

いた。

家父長制のもと、嫁は何事も控えめで、慎ましかである一方で、卑屈にならず、立ち居振る舞いを優雅に、気高く生きる謙讓優雅が理想とされていた。

\*

飽食の時代と言われるほど豊かになり、女性の生き方も多様になった今の時代、3つの校訓の意義は何であろうか。

豊かさの代償で様々の環境問題が生じている今日、飾り気のない質と実に重きを置き、心のある生き方を貫く剛健質実、今もなお大切な心がけであろう。

生き方の選択肢が多岐にわたり、途中の方向転換も許される今日であるからこそ、自分を信じ、明朗快活を心がけることにより、たとえ挫折したとしても、陽はまた昇ろう。

謙讓優雅はどうか、

謙讓の美德は、戦後日本が国際化されていく中「はつきりと意見を言わない、何を考えているのか分からない」「日本人の特質として擲揄された。そして「明確に自分の主張をし、イエスノーをはっきりさせる」西洋的思考の必要性が強調

されるとともに、時代遅れになった感も否めない。

では、西洋では謙讓は美德ではないのか。

謙讓にあたるmodestyを含む格言をネットで探すと数多くあった。

Beauty without modesty is like words without honesty  
〈慎みのない美は誠実さがないことばと同じだ〉

Modesty is the only sure bait when you angle for praise(称賛を得ようとすると必ず深くあれ)

両者ともに美を強調する余り華美に走ったり、称賛を得ようと誇張し過ぎたりすることを戒め、正直さ、誠実さが肝要であると説く格言となっている。

『にんじん』で有名な作家ジュール・ナールの次の表現はウイットに富んでいる。

It is easy for a somebody to be modest, but it is difficult to be modest when one is a nobody  
〈ひとかどの人物にとって慎み深くあることは容易なことだが、どこ

にでもいる俗人にとっては難しいことである〉

ここには「偉い人は控えめでいられるが、俗人はそうはいかないのだ」との皮肉がこめられている。

確かに、世間の評価が定まったひとかどの人物は、誇張したり、自慢したりする必要はあるまい。しかし、ひとかどの人物でなくとも、自らを信じ、自分の生き方を貫いている者は、正直で誠実であり、必要以上に美辞麗句で飾ることはあるまい。誠実で慎み深いことは、洋の東西を問わず、大切な資質なのである。

日本語の謙讓には英語のmodestyにはない、相手を尊重し、自分を低めることで相手を高める意味がある。

様々の文化や価値観が存在し「違いを共に生きる」ことが望まれる今日、自分を低めることはなくとも、相手を尊重し思いやることは大切なことである。

謙讓優雅は「相手を思いやり、誠実に、気高く生きる」と解釈ができ、多様性を認め合うことが必要不可欠な、グローバルな今の時代にふさわしい校訓といえよう。